

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
『東京文化財研究所年報』（*企08）	企画情報部	83
『東京文化財研究所概要』（*企08）	企画情報部	83
『東文研ニュース』（*企08）	企画情報部	83
平成23年版日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（調査・研究成果の公開）（企09）	企画情報部	83
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	83
「保存科学」52号の出版（保修09）	保存修復科学センター	84
第35回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（無05）	無形文化遺産部	84
『横山大観《山路》—美術研究作品資料第6冊』（*企02）	企画情報部	84
『伊藤若冲「動植綵絵」蛍光X線分析結果』（*保修01）	保存修復科学センター	84
『日韓共同研究報告書2012』（*保修04）	保存修復科学センター	85
『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2012年度』（*保修06）	保存修復科学センター	85
『日本画・書跡の損傷一見方・調べ方』（保修13）	保存修復科学センター	85
『近代建築に使用されている油性塗料』（*保修07）	保存修復科学センター	85
Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media（*保修07）	保存修復科学センター	86
『各国の文化財保護法令シリーズ[15] 韓国』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	86
『各国の文化財保護法令シリーズ[16] ミャンマー』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	86
『各国の文化財保護法令シリーズ[17] フィリピン』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	86
『世界遺産の動向と課題—第36回世界遺産委員会』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	87
『国際資料室蔵書目録』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	87
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2012』（*保修08）	保存修復科学センター	87
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成24年度成果報告書』（*セ02）	文化遺産国際協力センター	87
『パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書：2011-2012調査成果』（*セ02）	文化遺産国際協力センター	88
Conservation of Monuments in Thailand [V]（*セ02）	文化遺産国際協力センター	88
『バーミヤーン遺跡資料集2 バーミヤーン谷中心部の地形測量』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	88
Geophysical Survey of the Buried Cultural Heritage in Bamiyan: Final Reports of 1st and 2nd Missions（*セ03）	文化遺産国際協力センター	88

Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings –Digital Documentation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9 (*セ03)	文化遺産国際協力センター	89
『在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画／工芸 平成23年度』(*セ04)	文化遺産国際協力センター	89

- *注
- ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。
 - ・『横山大観《山路》—美術研究作品資料第6冊』は、文化財の資料学的研究（①企02）の一環として実施した。
 - ・『伊藤若冲「動植綵絵」蛍光X線分析結果』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保01）の一環として実施した。
 - ・『日韓共同研究報告書2012』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①保04）の一環として実施した。
 - ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2012年度』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①保06）の一環として実施した。
 - ・『日本画・書跡の損傷—見方・調べ方』は、所長裁量経費「絵画書跡損傷調査方法に関するハンドブック」（保013）として実施した。
 - ・『近代建築に使用されている油性塗料』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保07）の一環として実施した。
 - ・Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保07）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[15] 韓国』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[16] ミャンマー』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[17] フィリピン』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『世界遺産の動向と課題—第36回世界遺産委員会』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『国際資料室蔵書目録』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2012』は、中国壁画の保護に関する日中共同研究（②保08）の一環として実施した。
 - ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成24年度成果報告書』は、東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
 - ・『パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書：2011-2012調査成果』は、東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
 - ・Conservation of Monuments in Thailand [V] は、東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
 - ・『バーミヤーン遺跡資料集2 バーミヤーン谷中心部の地形測量』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
 - ・Geophysical Survey of the Buried Cultural Heritage in Bamiyan: Final Reports of 1st and 2nd Missions は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
 - ・Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings –Digital Documentation of

the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9 は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。

- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画／工芸 平成23年度』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。詳細は、59頁を参照。

平成23年版日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（調査・研究成果の公開）（⑥企09-12-2/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成23年版は、B5判455ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、小林達朗、皿井舞、河合大介（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約80年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は407号、408号、409号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-12-2/5）

『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第7回にあたる本年度は「記憶・記録を伝承する—災害と無形の民俗文化」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



「保存科学」52号の出版 (⑥保修09-12-2/5)

国立文化財機構所属研究員等による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告及び修復処置概報等を掲載している。52号には報文4本、報告22本を掲載した。



第35回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (⑥無05-12-1/1)

『第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書 染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—』

本書は、2011（平成23）年9月3日～5日に開催された国際研究集会「染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—」の成果論文集である。「染織技術を守る」「染織品保存修復のいま」「染織技術へのまなざし」「染織技術をつたえる」という4つのテーマに基づき、各発表者による原稿と総合討論のテープ起こし原稿を掲載している。284ページ。



『横山大観《山路》—美術研究作品資料第6冊』（①企02の一環として実施）

企画情報部のプロジェクト「文化財の資料学的研究」の報告書。横山大観《山路》（永青文庫蔵）の調査研究をまとめ、2002（平成14）年以来、逐次刊行してきた『美術研究作品資料』の第6冊とした。

近代日本画の巨匠として知られる横山大観が1911（明治44）年の第5回文部省美術展覧会に出品した《山路》は、発表当時、西洋の印象派と南画の融合と評されたタッチを多用することで、明治30年代に大観らが試みた朦朧体を脱し、大正期に流行した“新南画”の先駆けとなったといわれる重要な作品である。2010年より「永青文庫常設展示振興基金」による事業の一環として同作品が修理されるにあたり、当研究所では永青文庫との共同研究として、《山路》に関する多角的な調査研究に取り組んできた。修理の過程で得られた新知見や顔料調査の結果、及び発表当時の批評等、本調査の過程で得られた諸研究成果の集成をめざしたのが本書である。2013年3月刊行。99ページ。



『伊藤若冲「動植綵絵」蛍光X線分析結果』（①保修01の一環として実施）

宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する伊藤若冲『動植綵絵』全30幅は、平成11年度から6か年にわたって修理が行われ、その修理過程において東京文化財研究所は宮内庁三の丸尚蔵館と共同で蛍光X線分析による非破壊・非接触の彩色材料調査を実施した。1000ポイント近くの調査が行われ、本書ではその全データを収録した。調査によって明らかになった30幅全体を通じた彩色材料の特徴、及び各幅の特徴についても詳細に解説した。



『日韓共同研究報告書2012』（①保修04の一環として実施）

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書である。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所と共同で発行した。



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2012年度』（①保修06の一環として実施）

本書は、中期計画プロジェクト「伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究」の本年度の活動内容のうち、代表的なものをまとめた報告書である。

本プロジェクトでは、これまで伝統的な文化財修復材料の適用や適正な文化財修復に対する使用方法の構築、さらには合成樹脂の適用や見直し調査などを目的としている。本年度の報告書では、①表装裂試料データのデジタル化、②文化財建造物における塗装修理材料の使用状況調査—丹塗・弁柄塗・朱塗—、③民家建造物における伝統的な塗装材料の調査と修理、④平等院鳳凰堂の塗装材料に関する調査報告、⑤瑞巖寺本堂内部の欄間木彫などの彩色材料に関する調査報告、⑥瑞巖寺本堂の塗装材料に関する調査報告、⑦巖島神社摂社荒蛭子神社本殿の塗装彩色材料に関する調査報告などの調査研究報告、さらには本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨や総合討論、アンケート結果を掲載した。



『日本画・書跡の損傷—見方・調べ方』（保修13-12）

日本画や書跡といった伝統的な装飾文化財について、その作品の状態把握を適切に行うための手引書として編集された市販本である。作品を専門的に取り扱える修理技術者と当研究所の科学的知見をもとに、美術館博物館の学芸員、美術史研究者、学生などが作品の構造と損傷状態を写真や図を中心に網羅的に解説したものである。



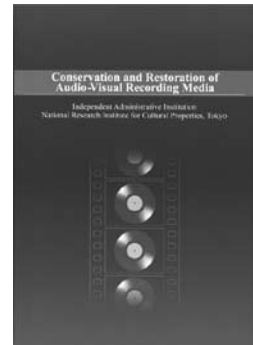
『近代建築に使用されている油性塗料』（①保修07の一環として実施）

本書は、2012（平成24）年2月に東京文化財研究所で開催した近代建築に使用されている油性塗料に関する研究会において、文化庁文化財部参事官室（建造物担当）調査官の小沼氏より、指定品となっている建築物に関する油性塗料の使用事例の紹介、及び、失われつつある材料の確保についての文化庁の取り組みが紹介され、続いて、博物館明治村の柳澤氏より博物館明治村における建築物の修復事例に関する詳細な報告がなされ、大澤塗装株式会社の大澤氏からは、油性塗料を含めた日本における塗装史に関する講演があり、最後に、ドイツのドイツ技術博物館のフォルカ・キースリング氏から、ヨーロッパにおける油性塗料の歴史、及び氏の専門である油性塗料に含まれる油に関する講演で締めくくった内容をまとめたものである。



Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media (①保修07の一環として実施)

本書は、2011（平成23）年3月に発行した、「音声映像の記録メディアの保存と修復」の英訳版である。各種音声・映像記録メディアの紹介及び保存状況や修復事例の紹介から始まり、行政の立場から文化庁美術学芸課の岡部氏、保存する立場の現場から東京国立近代美術館フィルムセンターのとちぎ氏、セルロイドハウス横濱館の松尾氏のお方、さらには、修復のワークショップを通じて皆さんに映画フィルムの楽しみ方を広めておられる大阪芸術大学の太田氏、レコード音源の修復作業に携わっておられるログオーディオの坂本氏、加えて、ベルリン技術経済大学で写真の修復を教えていらっしゃるカースティン・バーテルス氏に、それぞれの立場から講演頂いた。



『各国の文化財保護法令シリーズ [15] 韓国』(②セ01の一環として実施)

本シリーズは先行の「文化財保護関連法令集」を受ける形で、2008（平成20）年度より発行を続けているA5判冊子である。諸外国での文化財保護制度を法的な面からアプローチする目的で、まず原文を収集し、研究の第一歩としてその和訳を試みている。

本冊子は、韓国の文化財保護法を和訳したものである。巻末には韓国語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、158ページ)



『各国の文化財保護法令シリーズ [16] ミャンマー』(②セ01の一環として実施)

本冊子はミャンマーの考古遺産法とその改正法、及び文化遺産地区保護保存法とその改正法、施行規則を和訳したものである。巻末にはミャンマー語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、167ページ)



『各国の文化財保護法令シリーズ [17] フィリピン』(②セ01の一環として実施)

本冊子はフィリピンにおける文化遺産に関する最新の法令である2009年国家文化遺産法とその施行規則、及びフィリピン史を通じた国民のナショナリズムの向上に関する法律を、原文の英文から和訳したものである。巻末には英語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、179ページ)



『世界遺産の動向と課題—第36回世界遺産委員会』（②セ01の一環として実施）

本書は、2012（平成24）年6月24日から7月6日にサンクトペテルブルクで行われた第36回世界遺産委員会についての報告書である。（2013年3月、40ページ）



『国際資料室蔵書目録 Library Catalogue of the International Cooperation Center Archives』（②セ01の一環として実施）

本冊子は、2012（平成24）年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1040点（和漢書188点、洋書852点）の資料及び国際資料室で所蔵する雑誌482種類を掲載した目録である。（2013年3月刊行、170ページ）



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2012』（②保修08の一環として実施）

本報告は、平成24年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第6期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」（5年間）の第2年目活動内容の概略を示すものである。平成24年度は、3回の現地共同調査（8月、11月、1月）と、中国側の来日研修（6月）を実施した。共同調査の成果として「第285窟壁画の顕微鏡による表面観察」「第285窟壁画の分光反射率測定」「携帯型蛍光X線分析装置による第285窟壁画に使用された材料調査」の報告3編を掲載した。また文化財保存修復学会（6月）で発表した「敦煌莫高窟第285窟壁画の劣化要因の検討—模擬壁画を用いた劣化実験—」と日本建築学会（9月）で発表した「敦煌莫高窟内の壁画の劣化に関する研究—塩の析出による壁画の劣化の評価—」を掲載した。



『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成24年度成果報告書』（②セ02の一環として実施）

平成24年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として実施した、カンボジア及びタイにおける文化遺産保存修復協力の内容、並びにインドネシア、モンゴルでの協力に関する事業成果をまとめたものである。（2013年3月刊行）



⑥刊行物 Area17

『パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書：2011-2012調査成果 Laporan Bantuan Rekonstruksi dan Rehabilitasi Kawasan Bersejarah di Padang: Hasil Penelitian tahun 2011-2012』（②セ02の一環として実施）

平成23年度文化庁委託「西スマトラ州パダン市における歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業」の成果のうち、パダン歴史地区の町並み及び建造物に関する現地調査の内容と成果を日本語とインドネシア語の両語併記でまとめたものである。（2013年3月刊行）



Conservation of Monuments in Thailand [V]（②セ02の一環として実施）

本報告書は、タイ文化省芸術局との協力合意書に基づいて平成20年以降に実施した共同研究に関して、2012（平成24）年8月にバンコクで開催した研究会の内容を中心に英語版でまとめたものである。（2013年3月刊行）



Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings—Digital Documentation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9, Indo-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Heritage, Series 3 (②セ03の一環として実施)

本報告書は、『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—第2窟、9窟壁画のデジタルドキュメンテーション—』インドー日本文化遺産保護共同事業報告第3巻（2012年3月刊行）の英語版である。（2013年2月刊行）



『在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画／工芸 平成23年度』（②セ04の一環として実施）

本書は、在外日本古美術品保存修復協力事業における作品修復、及びワークショップに関する報告書である。

絵画としては、源平合戦図屏風（スイス）、竹に雀図屏風（スイス）、四季花鳥図屏風（アメリカ）、伯牙弹琴図屏風（イギリス）、山水図（ドイツ）、漆工芸品としては、菱繫文螺鈿筆筒（チェコ）、花樹鳥蒔絵螺鈿筆筒（イギリス）、螺鈿鶴形合子（オランダ）、花鳥螺鈿枕（オランダ）、瀧蒔絵鼓箱（ドイツ）、折枝散蒔絵喇叭（オランダ）の修復を行った。

ワークショップは、「紙本絹本文化財の保存と修復」（ドイツ・ベルリン、2010（平成22）年10月5日～13日）、「漆工品の保存と修復」（ドイツ・ケルン、2010（平成22）年11月14日～25日）の内容で行った。

